

12/2x

国内で消費者が買い物をする際、クレジットカードで支払われた金額は17%にすぎない。現金志向が強いからと片付けるのは簡単だが、カードの複雑な手数料のしり込みも敬遠される大きな原因ではないか。

内閣府の調査では58%の人が「積極的に利用したくない」と回答。その半数は「カードが無くて不便を感じない」として利点を見いだしていない。問題視されているのが安全にカードを使える環境が確保できていないという不安だ。

10%上乗せ請求

札幌市の繁華街ススキノで今月、1軒の飲食店が大手クレジットカード会社から指導を受けた。理由は「手数料の二重取り」だ。「カ

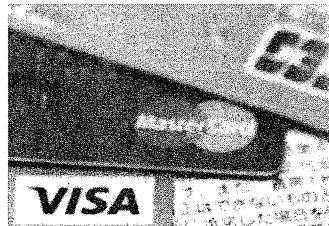


謎の内訳 ①

ードを利用すると料金の10%が付加されます」。カード会社の社員がこの飲食店で自社のカードを利用しようとしたところ、請求額は本来の金額に10%上乗せされ8800円になった。こんな手数料の二重取りは「氷山の一角。悪質な場合は利用契約を解除する」とカード関係者は言う。店がカード会社に支払うのは加盟店手数料。店の規模や業種によりまちまちだ

カード「二重取り」横行

利用増、安心確保がカギ



が、通常は代金の2〜5%。この水準は妥当なのか。英国の調査会社によると日本は平均3.6%。カード大国の米国は2.2%で韓国は1.9%と日本より低い。カード会社は「年会費」や「システム利用料」といった固定費も別途徴収する。支払いの選択肢は多いに

加盟店手数料の「二重取り」はカード会社との規約で禁止されている

の裾野を広げることができない。航空会社のマイレージや人気通販サイトのポイントへの還元率はどの程度だろう。カードで支払った金額のうちポイントなどが付与される割合は0.5%程度と低く魅力に乏しい。

消費促す機能

落とし穴は「分割払い」「リボ払い」といった借り入れをした場合のコストだ。リボ払いの年利は約15%に上り、マイナス金利時代に不釣り合いな高利貸しだ。ある会社のショッピング取扱高のうちリボ払いの比率は5%だが営業利益の約4割を稼ぎ出すドル箱

に適切に還元すれば利用者が

カード会社が利益を顧客

高見浩輔、逸見純也が担当

しました。